

# 栃の木からの手紙

2021年 葉月 8月号

- 6日： 広島原爆の日  
7日： 立秋  
8日： 新月 旧 7月 1日  
9日： 長崎原爆の日  
12日： 御巢鷹山慰霊の日（日航ジャンボ機墜落）  
15日： 平和祈念の日  
22日： 満月 旧7月 15日  
23日： 処暑

【7月 1日 本培土 2回目】



【7月6日 残った雑草】



【7月29日 大暑を過ぎた芋の畝】 でも…、二十四節季「大暑」をすぎた芋の畝は写真の様。



この時期になると芋は花の蕾を着け始め、とうや芋は開花しています。萌芽していなかった品種も萌芽しています。

普通は、本培土を2回もすることはありません。当農場では、雑草が芋の畝間に緑に見え、これから先の事を考えるともう一回本培土を入れる事にしました。

今回は、芋のストロンも伸びていてその先には子芋も付いています。さやあかね芋は、直径1cm程のピンク色の子芋が何回か出て来ました。

1回目とは作業方法を変えて、芋のストロンを切らない為にロータリーカルチは使いません。

土を盛り上げる為の培土機の前に一本の深耕爪を付けてあります。深耕爪で通路の土を砕いて柔らかくしたものを培土機で盛り上げて行きます。

この後、残った雑草は気にしないか、やり易い時期に手取り除草をする事になります。特に生育の遅いノーザンルビーの畝は草取りホーで一畝一畝草を取って歩きました。

心が折れそうな現状ですが、それでも昨年、以前よりも大分大きな雑草が少なくなっています。また、今年は疫病が気にならないくらい芋の茎が青々しています。このまま自然に芋の生育の終盤を迎え芋の茎葉が「黄化」してきています。



7月の高温早魃は、疫病の蔓延を抑える事に効果がありましたが芋の肥大がどうなっているのか心配なところです。



7月15日

自然農法の芋の花が見頃になっている事を数日前に伝えたところ、美を楽しむ会「美楽会」の方々が、ヒマワリの開花と共に自然農法の畑を訪れてくれました。



7月16日

美楽会のひまわり娘達のパワーか？美幌神社の宮司自らひまわりを刈に来て神社に奉納し、花手水にご使用され、ひまわりに新たな命を与えて頂きました。



7月28日

帯広のビーツの先生が一般と有機のビーツの様子を見に立ち寄ってくれました。積極的な妻の様子が嬉しいですね。丁度、小麦の収穫作業が休みの日でした。



7月29日

北見の知人が網走へ帰るオーガニックの料理の先生と一緒に忙しい中時間を作って有機JAS畑を見に来てくれました。

私は、小麦の収穫作業中で小麦満載のトラックで一旦畑に立ち寄り対応させて頂きました。

半月ほどの間にこれ程自然農法の畑に人が訪れる事は初めてでした。

8月1日

ひまわりを土に返す日。北見の知人が野菜ソムリエと共に自然の畑を見に訪れました。雨がちの中、芋の様子を確認して頂きました。この時、看板の芋の名前の間違いに気付きました。

